

# 令和2年度根室地区の研究活動

研修副部長 中標津町立丸山小学校

校長 横山 裕 充

## 1 はじめに

根室管内小中学校校長会は、1市4町の公立小中学校に所属する41名の会員で組織されている。毎年1回根室管内小中学校校長研究大会を開催し、共通の研究主題のもと実践を積み重ねてきている。本年は、コロナ禍の中で感染対策のため、大会を開催せず各市町校長会の取組に任せることになった。

## 2 研究計画

### (1) 研究の方針（昨年度より継続）

- ①「生きる力」「知・徳・体」の調和のとれた豊かな人材育成を目指し、組織的に研究と修養に努める。
- ②道小、道中、管内校長会、根室管内市町教育委員会、教育局等との連携を図る。

### (2) 研究主題（昨年度より継続）

「根室の風土を生かし、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ社会に開かれた学校教育の創造」

※5か年の継続研究の1年次として、研究内容の共通理解を深め、諸課題の解決を目指す。また、全国全道大会での提言や参加につながるよう研究協議を重視する。

### (3) 活動計画

#### ①根室管内小中学校校長研究大会の開催（中止）

- 会 場 中標津町トーヨーグランドホテル
- 期 日 令和2年8月27日（木曜日）

#### ②全道全国研究大会への参加（中止）

○全小連近畿京都大会 : 令和2年10月29日～30日

○道小オホーツク北見大会 : 令和2年9月13日～14日

提言発表「教育課程：豊かな人間性」（春松小：植島博幸校長）＜誌上発表＞

○全日中和歌山大会 : 令和2年10月22日～23日

○道中函館大会 : 令和2年 9月25日～26日

#### ③プロジェクト

- 道小「教育課程：豊かな人間性」（羅臼町立春松小学校 植島博幸 校長）  
羅臼町校長会を中心に発表に向けて協力する。

## 3 研究活動の概要

本年度は、ほぼ全ての活動が中止となる中、道小オホーツク北見大会において、提言発表をすることになっていた「教育課程：豊かな人間性」（春松小：植島博幸 校長）の内容についてやりとりし、交流するとともに、研究を深めた。

本研究を通して得られた豊かな人間性を育むためのマネジメントサイクルにおける校

長の役割として、以下に研究概要をあげる。

(1) これからの社会に必要な資質・能力を踏まえ、自校のカリキュラムの課題を見抜く  
校長の役割

《具体的な方策》

ア 幼児期と小学校の生活を安心して移行できるだけでなく、児童の人権感覚を養う  
幼小中一貫した教育を充実させていく。

イ 人権教育の目標を、性教育でのねらいである「自己受容」「他者受容」と関連付  
けながら「誕生学」として指導を進める。

ウ 環境保全や生命愛護の心情を養うために、道徳教育と関連付けながら「海洋学」  
として編成していく。

エ 徳育の側面を課題として人権教育と道徳教育の関連を踏まえ、中期的目標と次年  
度の重点を設定できるようなグランドデザインを構想する。

(2) 自校の課題について「見える化」を図り、教職員の課題認識を促す力を養うような  
校長の関わり

《具体的な方策》

ア 人権教育を通じて育てたい資質・能力を教職員に説明し、相手意識をもったコミ  
ュニケーションの能力を高めていけるような活動に見直すよう関わった。

イ 人権教育を各教科等との関連や実施時期について、教育課程委員会を活用しなが  
ら見直しをするように関わった。

ウ 道徳の内容項目と各教科等の内容及び指導時期を関連させるように工夫した。

エ 人権教育と道徳教育の関連を学校経営方針で丁寧に説明し、教育活動へ反映させ  
ていった。

(3) 教職員や関係機関等による組織を編成し、課題解決に向けて教育課程の改善を図る  
校長の指導性

《具体的な方策》

ア 全教職員が人権教育の視点での課題意識をもち、児童に育てたい資質・能力に基  
づいた教育課程の改善や全教職員がカリキュラム・マネジメントの当事者である  
という意識改革につなげた。

イ 人権教育の視点から横断的に教育活動を見直すことで、学校としての取組全体を  
俯瞰し、新たな枠組みでの教育課程の編成につなげた。

ウ 学校経営方針の中で、人権教育や道徳教育の関連について明示したり、その内容  
を教育活動へ反映させたりするように教職員に示した。

エ 道徳教育と人権教育は独立したものではなく、二つは相互に関連し合うものであ  
るという意識改革につなげた。

#### 4 おわりに

提言発表「教育課程：豊かな人間性」は、羅臼町校長会が中心となってまとめたが、  
根室管内小中学校校長会として、一つのテーマを共有することができた。今後も一つ  
一つのテーマを実践という形で課題解決する活動を続けていく。